脱施設化ガイドライン案への世界のコメント（2022年6月）　No.90



and

Network of Independent Experts – NIE

Written submission

from **Petya Garova[[1]](#footnote-1)**

to the Committee on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD)

**ペーチャ・ガロヴァ（Petya Garova）**

**（ヴァリディティ財団と独立専門家ネットワーク（NIE）の協力による）**

この意見は、独立専門家ネットワーク（NIE: Network of Independent Experts ブルガリアに拠点を置くNGO）に文書で提供されたものです。ペーチャの指示により加筆され、意見はヴァリディティ財団（Validity Foundation）の支援のもと、NIEが翻訳しました。

私は物心ついたときから社会的施設に住んでいました。いろいろなことを目撃してきました。スタッフや居住者による身体的、精神的な虐待です。スタッフ、特に教師は、幼い子どもを叩いていました。職員は彼らから盗みを働いたりもしました。大きな男の子や女の子も暴力を振るったり、物を盗んだりしていました。攻撃的で失礼な口調や侮辱をたくさん目撃しました。また、私が育ったそのホームで起こった多くの間違ったことを目撃してきました。今はそこがどうなっているかは知りませんが、多くの場所では、子どもたちの生活はあまり変わっていません。私にとっては、愛する祖国で起きている脱施設化は完全に失敗です。脱施設化は非常に誤解されており、その結果は、悲劇的とは言わないまでも、非常に不愉快なものになりました。

脱施設化は、変化をもたらすと約束されたプロジェクトでした。それによると、脱施設化とは、施設での子どものケアを、地域社会における家族または家族に近い環境でのケアに置き換えるプロセスであり、子どもを施設から追い出すだけではありません。これは、子どもを施設に入れないようにし、子どもと家族が地域で支援を受ける新しい機会を作るプロセスであり、多くのレベルで行われるはずでした。

a) 家族や社会領域や関連分野の専門職と協力して、子どもの遺棄や施設入所の防止に取り組み、子どもの施設入所を制限し徐々に停止させるとともに、子どもの家族への再統合を支援する；

b) 子どもの遺棄の防止と家庭環境での子どもの養育のために、生まれ育った家族と拡大家族を支援する社会的支援と保護のプログラムを実施する社会支援制度を改革し、取り組む；

c) 子どもの施設からの退所機会を作るため、または施設収容を防ぐために、代替サービスおよびケアの形態を開放する；

d) 0～3歳の子どもを対象としたサービスの開発に焦点を当て、養子縁組と里親の開発を促進する；

e) 施設を出た子どもの社会的包摂を支援するために、一般市民を関与させる；

f) 子どもに関わるすべての人々の取り組みの中心に、子どもと家族を据える。

これらはよいことです。ここで私が質問したいのは、書かれているこれらのうち、どれが起こっているのか、そして全く起こっていないのか、ということです。私の観察と経験によれば、間違いなく、深刻な矛盾があると言えます。100ページ書くのと、実際に起こるのは別物です。そこが大きな問題なのです。書くことと現実に起こることの間には大きなギャップがあります。残念ながら、現実には、子どもや若者は、最良の条件やケアを受けていません。FTRC（Family-Type Residential Centers家庭型居住センター）と呼ばれる小さなホームに収容されているのです。確かに収容人数は少ないのですが......生活環境は同じです。スタッフとして雇われた人たちは、訓練を受けておらず、子どもや若者に対する個々のアプローチもありません。同じルールが依然として適用され、最悪なのは、施設から「古参の」管理者を雇うことです。これらの管理者は、新しいやり方ではなく、以前の施設での古い仕事のやり方に慣れているのです。彼らは、さまざまな障害のある子どもを収容しています。知能が保たれている子どもや若者と、保たれていない子どもや若者を比べるのは適切ではなく、そのために知能が保たれている入所者は発達から取り残されてしまいます。職員は、すべての入所者に同じことをさせてはなりません。子どもは違うし、ニーズも欲求も違います。言うまでもなく、子どもの世話をするという発想がまったくない人たちを雇っているのです。子どもがだれかの命令を理解できなかったり、居住者の私的スペースに入り込んだりしたからといって、平手打ちや靴で叩くことを当たり前のようにしている人たちです。もし、ある居住サービスにおいて、スタッフが自分の仕事をし、管理者が新しい人で、居住者の条件を改善する新しい変化に前向きなら、担当する自治体は完璧な仕事をしていると言えるでしょう。私が住んでいる場所の生活環境は最高だと言えます。各自が自分の部屋を持っていて、専用のトイレもあります。大きなベランダもあり、大勢で過ごすのに適しています。このような素晴らしい環境ですが、これは2009年のプロジェクトのおかげではなく、あるNGOのおかげです。あるNGOが開発したプロジェクトで、外国人が資金を提供したのです。2009年にオープンしました。

社会の支援と個人の発達：

補助者と職員の間には、大きな違いがあると断言できます。補助者は、私たちが作業表に書いたことを実行してくれました。私たちを助けたり、一緒に散歩したり、自分たちだけではできないことを何でもやってくれました。その時、管理者が優位に立つことはありませんでした。プロジェクトが終わった後、職員が戻ってきたのですが、これは以前と同じでした。確かに職員は入れ替わりましたが、それは有能になったわけではなく、むしろ逆でした。彼らは部屋の一つを与えられ、そこをオフィスとして使っていました。必要な能力もないのに雇われていました。管理者は、よく考えることなく彼らを受け入れているのです。私が彼女（管理者）と知り合ってから、彼女は良いチームを持ったことがありませんでした。彼らは冷たい人間か、無知な人間のどちらかです。エプロン姿の女性職員が常に携帯をいじっているのに、いかに自分が忙しいか文句を言っているのを見ると、おかしいと思います。

私たちが自分のために何かを買おうとしても職員は同意せず、私たちに必要だと職員が信じるものものにしようとします。これらは、私たちではなく、彼らが必要としている可能性が高いのです！

パンデミックの時は、誰も入ってこられませんでした。もし私たちが一人暮らしをしていたら、誰を入れるかを決められるのですが、私たちはグループホームに住んでいるため、決められません。誰もです。これは完全な孤立を意味します。

私はペットを飼っています。猫を飼っています。虫下しやワクチンも打ってあります。しかしこれは、ペットは禁止されていると常に私をいじめ、いつでもペットを追い出すぞと脅す手段です。彼らは私を操るために、私が愛着を持っているものを利用しています。

新サービスに変化を期待したのもつかの間、そうでないことが明らかになりました。ベランダにはカメラが設置されています。私たちが誰と連絡を取っているか記録され、管理者は私たちをストーキングしています。さらに悪いことに、私たちには何の自由もないので、彼らはまるで独裁者のようです。

私が生きている間に、このサービス状況が改善されることを心から願っていますが、私が見る限り、それが実現することあるかどうか大いに疑問です。私は、これらの施設で、本当に人を助け、必要な注意を払う補助者が雇われればうれしいです。不平を言い、命令し、人をたたくことさえし、子どもたちや若い人と向き合う時間もとらない職員は嫌です。

社会サービスは、いろいろな障害のある人を混在させず、病気やニーズに応じて利用されるべきです。子どもといえども個人であり、個別のニーズと支援があります。年長の居住者には、仕事や勉強をさせるべきです。スタッフはサービスをしている間には、移動を支援すべきです。それは社会サービスの一般的な義務です。利用者に適さない上に高価である民間交通機関を探させるようなことはしてはなりません。

親愛なる障害者権利委員会の皆様！

できればこの文書を読み、書かれていることを考えてください！さまざまな国が下した間違った決断について、そして政治家の「浅はかな」考えから生じた結果について考えてみてください！もし、あなたがそのように投げ出され、不確かな未来に怯えているとしたら、どう感じるでしょうか？この地獄からどうやって自分を救うのでしょうか？この21世紀に、生きているのに助けを求めるのは普通ではありません。家庭的であるはずなのに，実際には施設的である小さなホームに住んでいる子どもや若者が、女性職員に怒鳴られたり、外の世界が怖くて外に出ることを怖がるのも、普通ではありません！外界は怖い、飢えてしまう、と脅されて、施設を出て自立して生活することを恐れているのです。自立して暮らしたいと思っても、自治体が所有する住宅がないため、施設にいるか、賃貸を探すしかなく、その費用は耐え難いほど高いです。施設に入った後の生活について、国が配慮してくれないのは普通ではありません！施設を出た後の彼らの生活に、国が無頓着なのは普通ではありません。施設を出た後、その人たちが存在しなくなるわけではなく、そこから人生との戦いが始まるのだから、少なくとも彼らが足を踏み出すまでは支援されるべきです！このような施設にどれだけのお金がかかっているかは言うまでもありません。そのお金は、冷淡で無教養な人の手に渡っています。経験も、訓練も、態度もない人に! 私にとっては、これは人生の否定に等しい！このような施設のために使われるお金は、国やその政治家にとって、普通の人々と同じ市民であり権利を持っているこれらの人々よりも重要なのでしょうか？ブルガリアの子どもに起こっていることを見て、私は激怒しています。

社会サービスは、現在の形では、助けるのではなく、不自由にするものです。私たちを肉体的にも精神的にも不自由にさせるのです。最後の手段として、もしこのような社会サービスが廃止されないのであれば、少なくとも職員の代わりに、個人契約を結んだパーソナルアシスタントを配置すべきです。パーソナルアシスタントは私たちがコントロールされるのではなく、コントロールすることができます。私は、誰も私たちの生活を支配しないこと、私が恐れや結果なしに守ることのできる自立した生活への真の権利を持つことを保証してほしいのです。これは、小さな施設である「小さなホーム」ではなく、手頃な価格の市営住宅を持つことを意味します。

今、さまざまな施設に与えられているお金は、自立した生活を望む人たちを支援するために与えられるべきです。訓練のため、外の生活に備えるためであって、拘禁やトラウマを引き起こすようなことのためではありません。現在のサービスは一時的なもので、準備のためだけのものだったはずですが、そうなっていません。それは書類の上だけのことで、現実のものではありません。

新しい法律や改革の話もあります。しかし、私たちの意見は考慮されず、私たちが何を必要としているのか、誰も聞いてきません。私たちは、個人的なスペースにカメラを設置することに賛成かどうかさえ聞かれません。法律や政治といった、より大きな、より重要な事柄についてはもちろん聞かれません。

私は、ガイドラインが、私のような人々の権利を尊重することを各国に義務付けることができるようになることを望みます。そして、何よりも、誰もが理解できる方法で、固定観念や他人の理解ではなく、各個人の夢や願望に従って、自立した生活を可能にすることを望んでいます。

**注：この投稿で示された意見はPetyaのものであり、Petyaが協議のプロセスに参加することを可能にした団体の意見を必ずしも反映するものではありません。**

（翻訳：佐藤久夫、岡本明）

1. 著者は障害のある人である。 [↑](#footnote-ref-1)